

資料配布の場所・日時

1. 筑波研究学園都市記者会
2. 国土交通記者会
3. 国土交通省建設専門紙記者会
4. 北海道庁道政記者クラブ
5. 札幌市政記者クラブ
6. 北海道開発記者クラブ
7. (株)建設行政新聞社

日時：令和8年 4月 30日 (14:00)



国立研究開発法人土木研究所
令和8年4月30日

アルカリ骨材反応が生じたコンクリート構造物を半世紀を超えて追跡

我が国では、1970年代から80年代にかけて、アルカリ骨材反応によるコンクリート構造物の早期劣化が社会問題となりました。その後、旧建設省で検討された研究プロジェクトの成果を踏まえ、1980年代後半にアルカリ骨材反応抑制対策が導入され、新たな劣化事例は大きく減少しています。しかし、過去に建設され、すでに劣化が見られる構造物については、その進行状況や補修効果を長期的に把握しながら、維持管理していく必要があります。本資料は、そのような構造物を管理する技術者の参考になるように、アルカリ骨材反応が生じた69件のコンクリート構造物を対象に供用開始から37～65年の間に複数回の追跡調査を行って、劣化進行や補修効果に関する知見を整理したものです。

【アルカリ骨材反応抑制対策前に建設されたコンクリート構造物の劣化進行に関する実態調査】

ホームページに上記を含む「土木研究所資料」「共同研究報告書」を掲載しました

1. 掲載資料

○土木研究所資料 * 研究所において実施した調査、試験及び研究の成果又は調査、試験及び研究を進めていく上で必要な資料をまとめたものに係る研究の成果をまとめたもの。

資料NO	タイトル	著者
4468	アルカリ骨材反応抑制対策前に建設されたコンクリート構造物の劣化進行に関する実態調査	先端材料資源研究センター 材料資源研究グループ

○共同研究報告書 * 共同研究に係わる研究の成果をまとめたもの。

資料NO	タイトル	著者
627	A I を活用した道路橋メンテナンスの効率化に関する共同研究報告書(Ⅱ-3)ー非破壊検査技術を用いたコンクリート床版上面の点検手法の適用性の検証ー	構造物メンテナンス研究センター 橋梁構造研究グループ 他
628	トンネル地山評価における先進ボーリングの調査法に関する研究	寒地基礎技術研究グループ 防災地質チーム 他
629	植物の成長に応じた重金属等の吸収蓄積に関する研究	寒地基礎技術研究グループ 防災地質チーム 他
630	補修・補強工法適用後の農業水利施設におけるモニタリング手法及び高耐久化を目指した工法の要求性能の解明に関する研究	寒地農業基盤研究グループ 他

2. 掲載先 以下のウェブページから閲覧できます。

- 土木研究所資料 URL : https://thesis.pwri.go.jp/public_kanko/100/2026/
○共同研究報告書 URL : https://thesis.pwri.go.jp/public_kanko/110/2026/

【問合せ先】	国立研究開発法人土木研究所	企画部業務課	課長	ますお	たけし
				増尾	健
				主査	片岡 貴之
		電話番号	029-879-6754		